令和8年度学校評価（中間評価）

学校評価委員会 R8.8.24(月)

本年度の重点目標	「生徒が安心して学ぶことができる、安全で活力ある学校づくりを目指す～これからの定時制課程・普通科として～」 （1）個別最適な学び・協働的な学び・探究的な学びの充実 （2）ICT活用教育・特別支援教育・多文化共生教育の充実と発展 （3）教職員が協力して、生徒を社会につなげる教育の充実 （4）教育公務員としての自覚をもち、目の前の生徒を大切にする指導の実践 （5）2030 年代半ばを見据え、定時制・通信制課程としての教育活動と教育環境の見直し			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項（達成基準を含む）	中間評価
防災 （総務部）	防災情報や知識の充実を図る	防災講話や避難訓練を通して、自らを守り安全に避難できる情報や知識をつける指導を推進する。	防災の情報や知識を身につけることができた。 A:80%以上の生徒・保護者が防災知識を得たと感じる B:50%以上の生徒・保護者が防災知識を得たと感じる C:30%以上の生徒・保護者が防災知識を得たと感じる D:30%未満の生徒・保護者が防災知識を得たと感じる	外部講師を招き、防災講話を行うことができた。様々な災害が全国各地で起きている現状なので、防災知識や災害ボランティア活動など生徒に合った情報発信を努めていく。
学習指導 （教務部）	外国籍生徒へ対する日本語指導の充実	学習言語である日本語の理解度を高めるための指導を推進する。	日本語指導が充実しており、日本語能力検定4級を取得できた。 A:80%の生徒が日本語能力検定４級に達する B:65%の生徒が日本語能力検定４級に達する C:50%の生徒が日本語能力検定４級に達する D:35%の生徒が日本語能力検定４級に達する	1年生19名が日本語教室に参加し、2・3年生20名が日本文化理解を受講している。日本語能力試験4級以上のレベルに到達するために日本語の学習を継続している。
生徒指導 （生徒指導部）	よりよい学校生活のための継続的なあいさつ運動の実施	朝の登校指導や生徒・教員が校内で積極的に挨拶を交わすことで、安心して過ごせる学校生活を築く。	学校生活を安心して過ごせている実感が持てた。 A:実感が持てる生徒が 90%以上 B:実感が持てる生徒が 80%以上 C:実感が持てる生徒が 70%以上 D:実感が持てる生徒が 70%未満	4月より朝の登校指導を継続して行っている。挨拶を交わし、朝から気持ちのよいスタートを切ることで、前向きな気持ちで学校生活を過ごすことができている。今後も安心して過ごせるような環境作りに努めていく。
生徒会活動 （生徒会部）	生徒主体の生徒会活動の構築	生徒会執行部を中心に生徒の意見を取り入れ、各種行事の企画・改善を図る。	生徒の意見を集約しており、行事を通して成長を実感できた。 A:行事を通して80%の生徒が成長を実感できた B:行事を通して 60%の生徒が成長を実感できた C:行事を通して40%の生徒が成長を実感できた D:行事を通して成長を実感できた生徒が40%未満	生活体験発表会や球技大会などを経て、体育的・文化的の両面から生徒の成長を促すことができた。引き続き生徒が成長を実感できる行事づくりに努めていく。
教育相談 （教育相談部）	安心して相談できる場所の情報提供	かきつばたの会(親の会)の入会や相談室体制を配布案内したり、SC、SSW,県の相談体制などの情報をきずなネットを通じて提供したりする。	相談ができる場所があることを知ることができた。 A:80%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた B:65%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた C:50%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた D:35%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた	4 月と 7 月にかきつばたの会を開催することができた。また生徒支援の一環として保護者を SC につなげたり、経済状況が急変した生徒を SSW につなげることができた。引き続き、保護者も含めた支援体制があることを周知していく。
保健・清掃指導 （保健厚生部）	進んで健康づくりに努める生徒の育成	アンケート等により生徒の健康課題を把握した上で、状況に応じた健康に関する情報を発信する。	アンケート等を活用され、状況把握と分析に努めることができた。 A:状況把握と分析ができた生徒が90%以上 B:状況把握と分析ができた生徒が70%以上	全校生徒を対象に「ストレスとの上手なつきあい方」に関するアンケートを実施予定。アンケート結果を分析し、生徒の実態や課題を把握するとともに、その結

			C:状況把握と分析ができた生徒が50%以上 D:状況把握と分析ができた生徒が50%未満	果を踏まえて、生徒が主体的にストレスと向き合い、適切に対処できるような支援について検討を進めていく。
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の充実と主体的な進路実現に取り組む意識の向上	各学年と連携を図りながら、適切な進路情報を提供する。	生徒の特性に配慮しており、進路学習を進めることができた。 A:具体的な進路を検討できる生徒が 90%以上 B:具体的な進路を検討できる生徒が 70%以上 C:具体的な進路を検討できる生徒が 50%以上 D:具体的な進路を検討できる生徒が 50%未満	本年度卒業予定の生徒のほとんどが進学か就職かの選択はできているが、具体的な進路先が未定の生徒が一定数いる。担任と連携をはかり、個別に面談を重ねながら具体的な進路が考えられるよう支援を進めたい。
第1学年 (1年学年会)	基礎学力の向上および高校生活や学校への定着	教科担任とも連携して授業を第一に考えさせ、「聞く力」を養うとともに、考査前の学習サポートを含めて、生徒が学習に取り組みやすい環境を作る。	高校生活が定着し、基礎学力の向上に努めることができた。 A:できている生徒が 80%以上 B:できている生徒が 60%以上 C:できている生徒が 40%以上 D:できている生徒が 40%未満	朝の ST 時から聞く態勢を整えさせ、授業や集会時などでも「人の話は聞く」という習慣が身に付くよう指導をしている。 学習サポートについては、前期期末考査の結果をもとに、後期中間考査から実施していく。
第2学年 (2年学年会)	校内での活動や修学旅行などの校外活動において、活動を計画・遂行する力の育成	授業や学級活動などで、個人またはグループで計画を立て実行する活動を取り入れる。	計画性や遂行する力が身につき、成長を感じることができた。 A:成長を感じる生徒が 80%以上 B:成長を感じる生徒が 60%以上 C:成長を感じる生徒が 40%以上 D:成長を感じる生徒が 40%未満	総合や HR、校外学習において、個人やグループ単位で実施している。今後は修学旅行に向けてさらに活動を増やし、計画・遂行する力を生徒が身につけることができるよう努めていきたい。
第3・4学年 (3・4年学年会)	適切な進路の選択や実現。卒業後を見据え、進路決定後も自己啓発に励む生徒の育成	個々の進路目標に応じた具体的な活動を行う。	個々の進路目標に応じた具体的な活動ができた。 A:できた生徒が 80%以上 B:できた生徒が 60%以上 C:できた生徒が 40%以上 D:できた生徒が 40%未満	進路別講座や外部講師に来てもらっての進路ガイダンスなどでそれぞれの進路に応じた具体的な活動をしている。進路決定後も自己啓発ができるように進めていきたい。
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組むことができた。 A:いじめの重大事態が0件 B:いじめの重大事態が1件 C:いじめの重大事態が2件 D:いじめの重大事態が3件以上	現在、いじめの重大案件は0件である。生徒指導部のアンケート調査や担任面接などを通して、効果的にいじめの早期発見に努めている。
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が 45 時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	校務の精選・削減をし、時間外労働時間を減らすことができた。 A:時間外労働時間 45 時間以上が0名 B:時間外労働時間 45 時間以上が 1 名 C:時間外労働時間 45 時間以上が 2 名 D:時間外労働時間 45 時間以上が 3 名	職員室の施錠時間を19:00とし、職員への計画的な仕事の従事を促している。繁忙期に校務を1人で抱えないように分掌、学年、教科等組織で行えるよう助言している。